

# カリキュラムマップ

人文科学研究科独語学独文学専攻 博士課程前期 R5年度以降入学生適用 (学位：修士(文学))

## ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

### 【知識・理解】

DP1：ドイツ語及びドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化・社会や思考方法と価値観に関する深い理解を有している。

DP2：先行研究を踏まえ、独自の論を展開できる知見を有している。

### 【技能】

DP3：高度なドイツ語運用能力を身に付けている。

DP4：ドイツ語およびドイツ文化に関する研究課題を発見し、その課題へのアプローチ方法と問題解決への道筋を明快かつ説得力のあるレポートや論文で明示する能力を身に付けている。

### 【態度・志向性】

DP5：専門的な知識と高度な能力を活かし、国際社会における異文化理解に貢献する姿勢を身に付けている。

DP6：研究倫理規範を遵守して、研究を遂行する能力を有している。

## \*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解		技能		態度・志向性	
				DP1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6
独語学特殊講義Ⅰ a	2	1	前期	○	○			○	
独語学特殊講義Ⅰ b	2	1	後期	○	◎			○	
独語学演習Ⅰ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
独語学特殊講義Ⅱ a	2	1	前期	○	○			○	
独語学特殊講義Ⅱ b	2	1	後期	○	◎			○	
独語学演習Ⅱ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
独語学特殊講義Ⅲ a	2	1	前期	○	○			○	
独語学特殊講義Ⅲ b	2	1	後期	○	◎			○	
独語学演習Ⅲ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
独語学特殊講義Ⅳ a	2	1	前期	○	○			○	
独語学特殊講義Ⅳ b	2	1	後期	○	◎			○	
独語学特殊講義Ⅴ a	2	1	前期	○	○			○	
独語学特殊講義Ⅴ b	2	1	後期	○	◎			○	
独語学特別講義Ⅰ	2	1	集中前期	○	○			○	
独語学特別講義Ⅱ	2	1	集中前期	○	○			○	
独文学特殊講義Ⅰ a	2	1	前期	○	○			○	
独文学特殊講義Ⅰ b	2	1	後期	○	◎			○	
独文学演習Ⅰ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
独文学特殊講義Ⅱ a	2	1	前期	○	○			○	
独文学特殊講義Ⅱ b	2	1	後期	○	◎			○	
独文学演習Ⅱ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎

独文学特殊講義Ⅲ a	2	1	前期	○	○			○	
独文学特殊講義Ⅲ b	2	1	後期	○	◎			○	
独文学演習Ⅲ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
独文学特殊講義Ⅳ a	2	1	前期	○	○			○	
独文学特殊講義Ⅳ b	2	1	後期	○	◎			○	
独文学演習Ⅳ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
独文学特殊講義Ⅴ a	2	1	前期	○	○			○	
独文学特殊講義Ⅴ b	2	1	後期	○	◎			○	
独文学演習Ⅴ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
独文学特殊講義Ⅵ a	2	1	前期	○	○			○	
独文学特殊講義Ⅵ b	2	1	後期	○	◎			○	
独文学演習Ⅵ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	○	◎
ヨーロッパ学特殊講義Ⅰ a	2	1	前期	○	○	○		◎	
ヨーロッパ学特殊講義Ⅰ b	2	1	後期	○	◎	○		◎	
ヨーロッパ学特殊講義Ⅲ a	2	1	前期	○	○	○		◎	
ヨーロッパ学特殊講義Ⅲ b	2	1	後期	○	◎	○		◎	
ヨーロッパ学演習Ⅰ	4又は8	1	2年通年	○	○		◎	◎	◎
独文学特別講義Ⅰ	2	1	集中後期	○	○			○	
独文学特別講義Ⅱ	2	1	集中前期	○	○			○	

※博士課程前期の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。（ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

・必要修得単位：32単位以上

必修科目：12単位（専修科目に定めた科目の演習科目8単位、講義科目4単位）

選択科目：20単位以上（その他の授業科目のうちから20単位以上）

※一つの特講義及び演習を選定し学生の専修科目とする。

※専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。

※専修科目の演習は2年間8単位の履修を原則とするが、選択科目として1年間4単位の履修を認めることがある。

・修士の学位論文は専修科目について提出する

特殊講義・特別講義科目・・・独語学独文学に関する専門的知識・理論を習得するとともに、研究に取り組む際に必要な能力を身につける。

演習科目・・・研究指導を受けて修士論文の作成を行う。そのために、習得した知識・理論を展開する技能と、客観的かつ独創的な研究を目指す指向性を身につける。

1年次・・・各専修の研究に関連する現状の把握と研究遂行に必要な基礎力の養成

・指導教員の指導を受け「研究計画書」を作成し、修士論文中間発表会（1月）にて研究進捗状況の報告を行い、他の教員および大学院生の指導・助言を受ける。

・演習、特講科目を通して、研究遂行に必要な知識・理解および技能を身につける。

2年次・・・各専修に関する研究を実施し、専門的知識に基づいた論理的説明能力と研究遂行力の養成

- ・1年次の総括を踏まえ、必要に応じて研究計画を見直し、指導教員による個別指導を受け、論文作成を進める。
- ・演習において指導教員に研究成果を報告し、研究指導の客観性と質の保証のために指導教員以外の教員による助言・補助指導を受ける。
- ・一定レベルの研究成果が得られた場合には、学会発表や論文投稿を行い、広く内外からの評価を受ける。
- ・修士論文題目を提出し、引き続き、主査、副査の指導を受ける。
- ・修士論文を提出し、修士論文発表会での論文審査および口頭試問を受ける。

## カリキュラムマップ

人文科学研究科独語学独文学専攻 博士課程後期 R5年度以降入学生適用 (学位：博士(文学))

### ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

#### 【知識・理解】

DP1：専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、高度な職業専門人・研究者として自立した活動ができる高度な知見を有している。

#### 【技能】

DP2：専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、高度な専門職業人・研究者として活動できる研究能力を活かすことができる。

DP3：ドイツ語を用い、独自の見解を論文で明示することができる。

#### 【態度・志向性】

DP4：専門分野において、高度な専門職業人・研究者として活動できる後進を育成する資質と指導力を活かすことができる。

DP5：研究倫理を遵守して、研究を遂行する能力を有している。

### \*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

研究指導科目	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能		態度・志向性	
				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
独語学特別研究Ⅰ	4又は12	1	3年通年	○	○		○	◎
独語学特別研究Ⅱ	4又は12	1	3年通年	○	○		○	◎
独語学特別研究Ⅲ	4又は12	1	3年通年	○	○		○	◎
独語学特論Ⅰ	4	1	通年	○		○	○	
独語学特論Ⅱ	4	1	通年	○		○	○	
独語学特論Ⅲ	4	1	通年	○		○	○	
独文学特別研究Ⅰ	4又は12	1	3年通年	○	○		○	◎
独文学特別研究Ⅱ	4又は12	1	3年通年	○	○		○	◎
独文学特論Ⅰ	4	1	通年	○		○	○	
独文学特論Ⅱ	4	1	通年	○		○	○	
独文学特論Ⅲ	4	1	通年	○		○	○	
独文学特論Ⅳ	4	1	通年	○		○	○	

※博士課程後期の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。(優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。)

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

・必要修得単位：12単位以上

必修科目：12単位 (専修科目に定めた科目)

※研究指導科目のうちから一つの特別研究科目を選定し、学生の専修科目とする。

※専修科目の研究指導(特別研究)担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。

※特別研究科目は3年間12単位の履修を原則とするが、専修科目としない場合は、1年間4単位の履修を認めることがある。

- ・博士の学位論文は専修科目について提出する。

特論科目・・・独語学独文学に関する専門的知識・理論を習得するとともに、研究に取り組む際に必要な能力を身に付ける。

特別研究科目・・・研究指導を受けて博士論文の作成を行う。そのために、習得した知識・理論を展開する技能と、客観的かつ独創的な研究を目指す指向性を身に付ける。

1年次・・・各専修の研究に関連する現状の把握と研究遂行に必要な基礎力の養成

- ・指導教員の指導を受け「研究計画書」を作成し、博士論文中間発表会（1月）にて研究進捗状況の報告を行い、他の教員および大学院生の指導・助言を受ける。
- ・特論、特別研究科目を通じて、研究遂行に必要な知識・理解および技能を身に付ける。

2年次・・・各専修に関する研究の実施と専門的知識に基づいた論理的説明能力と研究遂行力の養成

- ・1年次の総括を踏まえ、必要に応じて研究計画を見直し、指導教員による個別指導を受け、論文作成を進める。
- ・特別研究において指導教員に研究成果を報告し、研究指導の客観性と質の保証のために指導教員以外の教員から助言・補助指導を受ける。
- ・一定レベルの研究成果が得られた場合には、学会発表や論文投稿を行い、広く内外からの評価を受ける。

3年次・・・これまでの研究成果の総括と自立的研究能力の養成

- ・2年次の総括を踏まえ、必要に応じて研究計画を見直し、指導教員による個別指導を受け、論文作成を進める。
- ・特別研究において指導教員に研究成果を報告し、研究指導の客観性と質の保証のために指導教員以外の教員から助言・補助指導を受ける。
- ・一定レベルの研究成果が得られた場合には、学会発表や論文投稿を行い、広く内外からの評価を受ける。
- ・研究指導教員の承認を経て、博士論文を提出し、博士学位申請論文発表会（公聴会）にて研究成果を発表し、最終試験を受ける。